

米国経済・金融概況 (2023年11月)

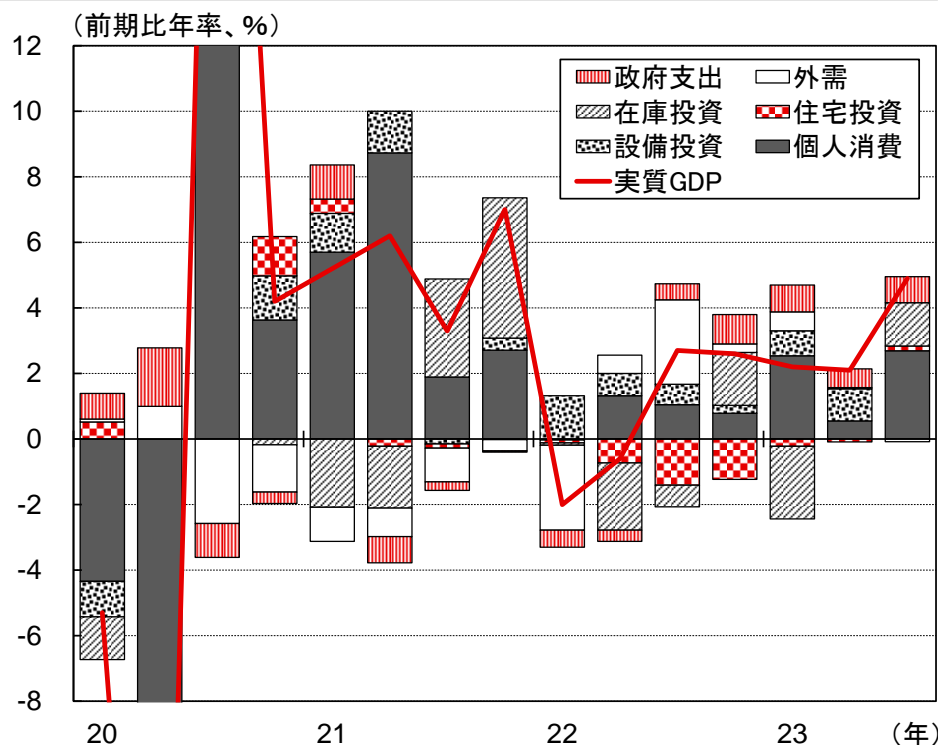
2023年11月24日

経営企画部経済調査室(ニューヨーク)

1. GDP

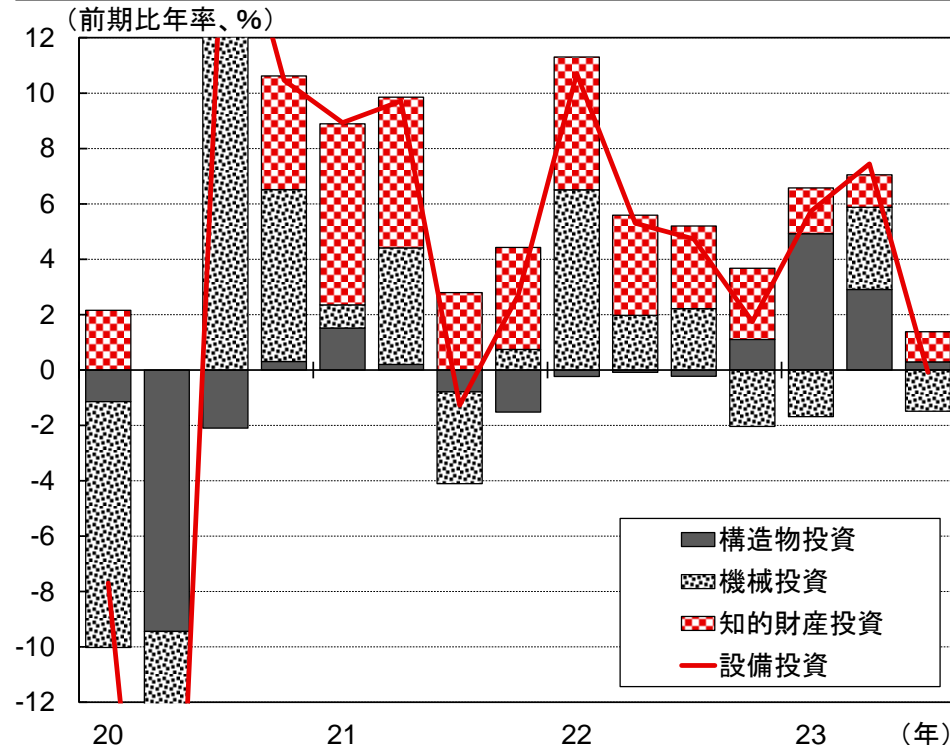
- 7-9月期の実質GDP成長率は前期比年率+4.9%と、前期(4-6月期:同+2.1%)から大幅に加速。
- 需要項目別にみると、全体の約7割を占める個人消費は同+4.0%(前期:同+0.8%)と加速。内訳は、財が自動車・同部品の増加により同+4.8%、サービスは同+3.6%と、それぞれ堅調に増加。また、住宅投資は同+3.9%(前期:同▲2.2%)と10四半期ぶりに増加。一方、設備投資は同▲0.1%(前期:同+7.4%)と小幅減少。知的財産投資は同+2.6%と増加した一方、機械投資は同▲3.8%と2四半期ぶりに減少し、前期まで高い伸びを示した構造物投資は同+1.6%と鈍化。
- 政府支出は同+4.6%と前期(同+3.3%)から加速。在庫投資の実質GDP成長率に対する寄与度は同+1.3%ポイント(前期:同+0.0%ポイント)、純輸出の寄与度は同▲0.1%ポイント(前期:同+0.0%ポイント)。

実質GDP成長率の推移



(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

実質設備投資の推移

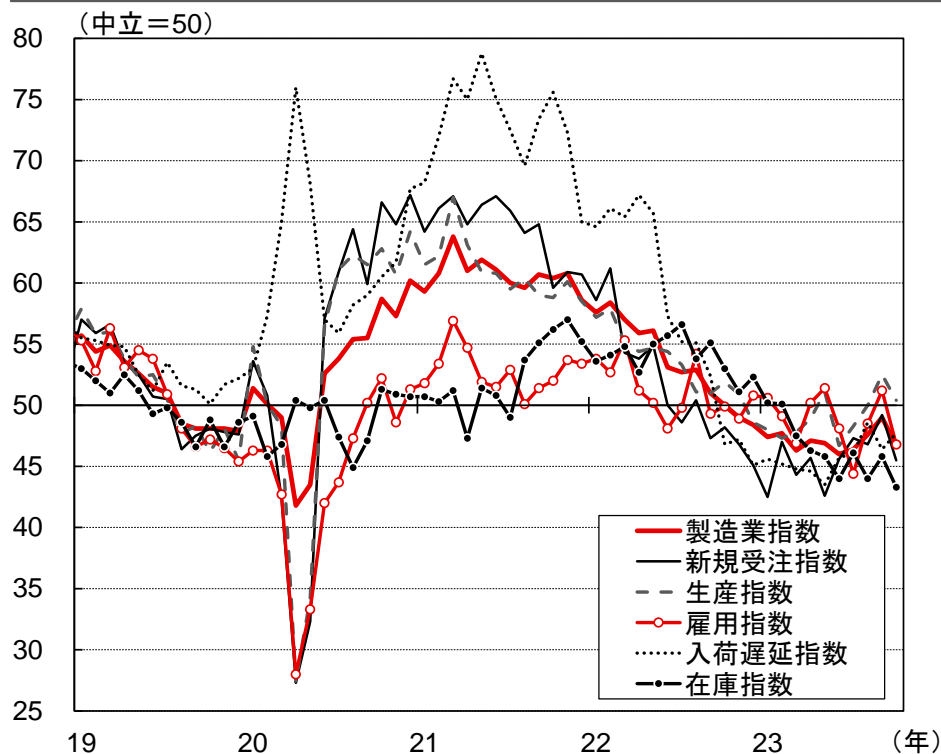


(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 企業活動

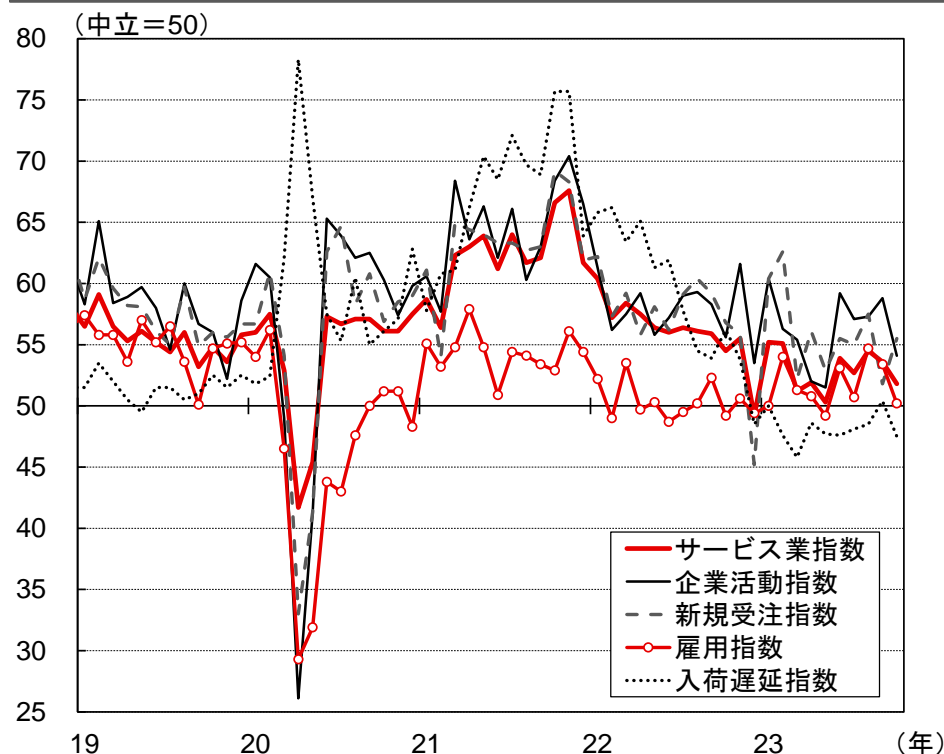
- 製造業の景況感・活動状況を表すISM製造業指数(総合指数)は、10月に46.7(前月比▲2.3ポイント)と4カ月ぶりに低下。指数の構成項目をみると、雇用指数(46.8、同▲4.4ポイント)、新規受注指数(45.5、同▲3.7ポイント)、在庫指数(43.3、同▲2.5ポイント)、生産指数(50.4、同▲2.1ポイント)が低下。回答企業からは、レイオフによる人員削減を行うようになっているとの指摘。産業別では全18産業のうち2産業が拡大、13産業が縮小、3産業が横這いを報告(9月は5産業が拡大、11産業が縮小、2産業が横這い)。
- 10月のISMサービス業指数(総合指数)は51.8(前月比▲1.8ポイント)と2カ月連続で低下。企業活動指数(54.1、同▲4.7ポイント)、雇用指数(50.2、同▲3.2ポイント)、入荷遅延指数(47.5、同▲2.9ポイント)が低下した一方、新規受注指数(55.5、同+3.7ポイント)は上昇。回答企業からは、人手不足と労働コスト上昇が引き続き雇用面の課題との指摘。産業別では全18産業のうち12産業が拡大、5産業が縮小、1産業が横這い(9月は13産業が拡大、5産業が縮小)。

ISM製造業指数の推移



(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

ISMサービス業指数の推移

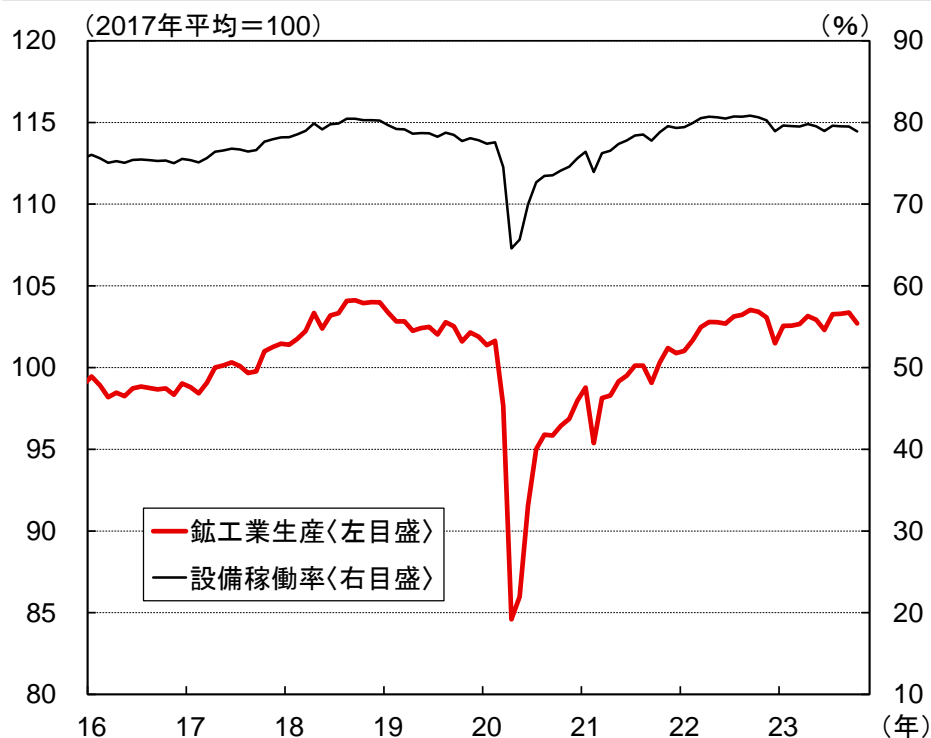


(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 生産

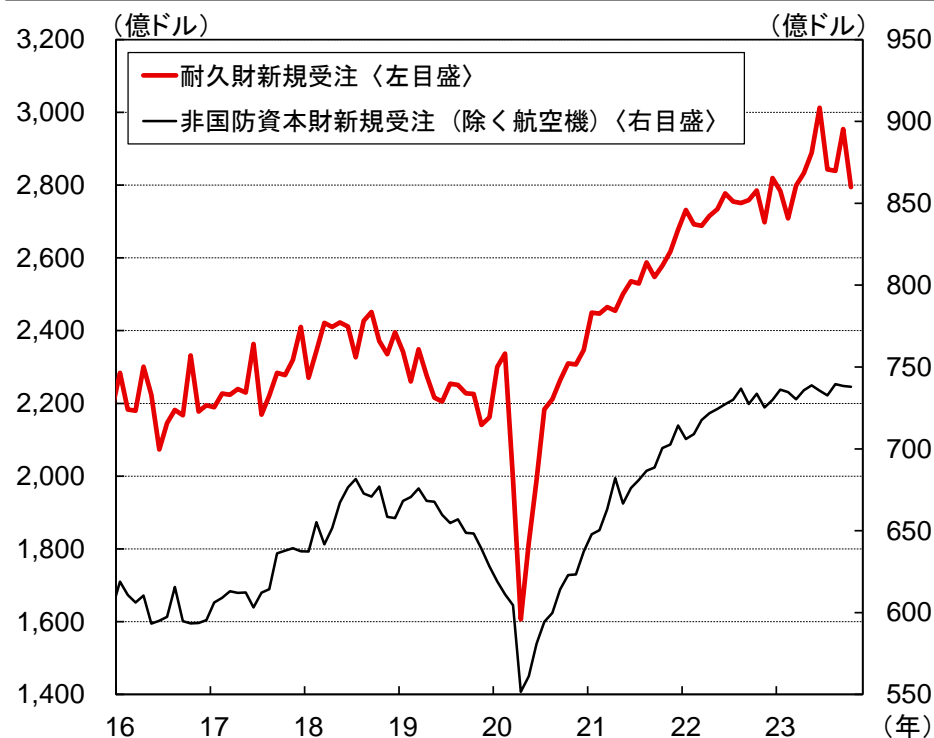
- 10月の鉱工業生産は前月比▲0.6%と4ヵ月ぶりに減少。産業別にみると、全体の約7割を占める「製造業」が同▲0.7%と減少。うち「自動車・同部品」はUAW(全米自動車労組)のストライキの影響で同▲10.0%と大幅に減少。「公益事業(電力・ガス)」は同▲1.6%と減少した一方、「鉱業」は同+0.4%と増加。9月の設備稼働率は78.9%と、前月から0.6%ポイント低下。
- 10月の耐久財受注は前月比▲5.4%と2ヵ月ぶりに減少。内訳をみると、「輸送用機器」(同▲14.8%)が、ストライキの影響を受けた「自動車・同部品」(同▲3.8%)や変動の大きい「民間航空機」(同▲49.6%)の大幅減少により、全体を下押し。設備投資の先行指標であるコア資本財受注(非国防資本財受注、除く航空機)は同▲0.1%と2ヵ月連続で減少。

鉱工業生産と設備稼働率の推移



(資料)FRB統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

耐久財受注の推移

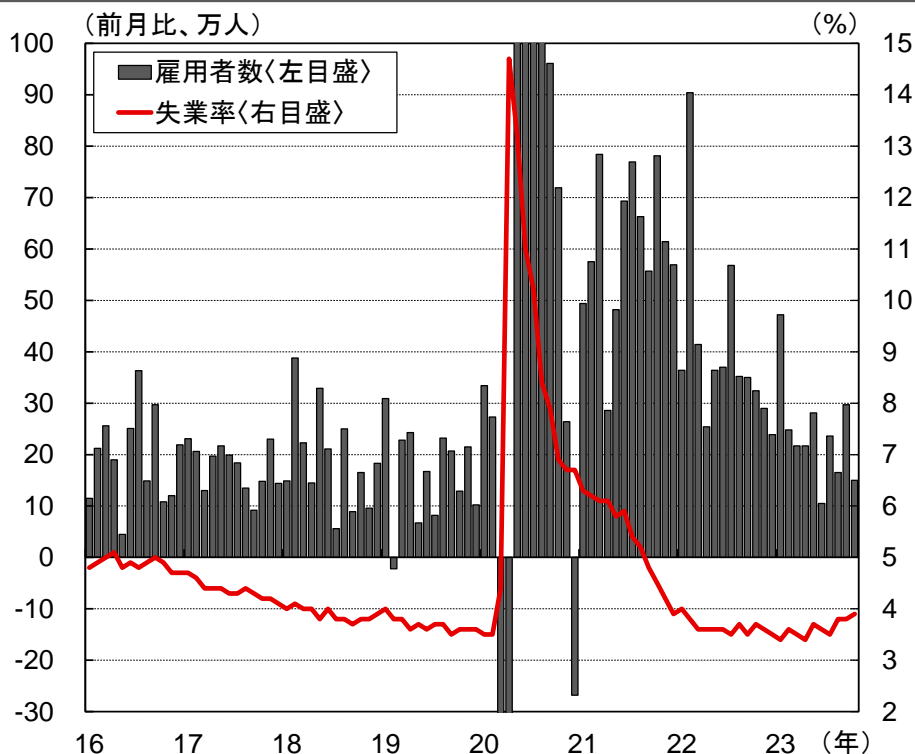


(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

4. 雇用

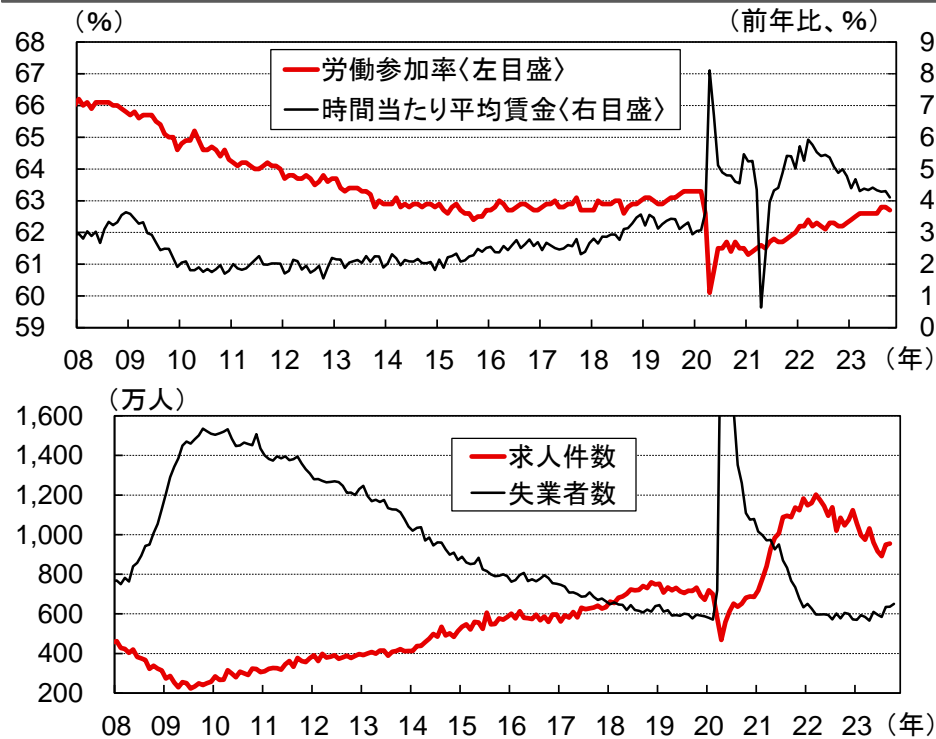
- 10月の非農業部門雇用者数は前月比+15.0万人と前月(同+29.7万人、改定値)から減速し、市場予想(Bloomberg集計: 同+18.0万人)を下回る結果。業種別にみると、「製造業」(同▲3.5万人)がUAW(全米自動車労組)のストライキの影響で減少して全体を下押し。「運輸・倉庫」(同▲1.2万人)、「情報通信」(同▲0.9万人)も減少した一方、「医療・社会扶助」(同+7.7万人)、「公務」(同+5.1万人)、「建設業」(同+2.3万人)、「レジャー・接客」(同+1.9万人)等が増加。
- 10月の失業率は3.9%(前月差+0.1%ポイント)と上昇した一方、労働参加率は62.7%(同▲0.1%ポイント)と低下。時間当たり平均賃金(民間部門)は前年比+4.1%(9月:同+4.3%)と伸びが鈍化。
- 9月の求人件数は955.3万件(前月比+5.6万件)と2ヵ月連続で増加。求人件数は失業者数の約1.5倍と依然として高水準にあるものの、労働需給の逼迫感は緩和しつつある。

非農業部門雇用者数・失業率の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

労働参加率・平均賃金・求人件数・失業者数の推移

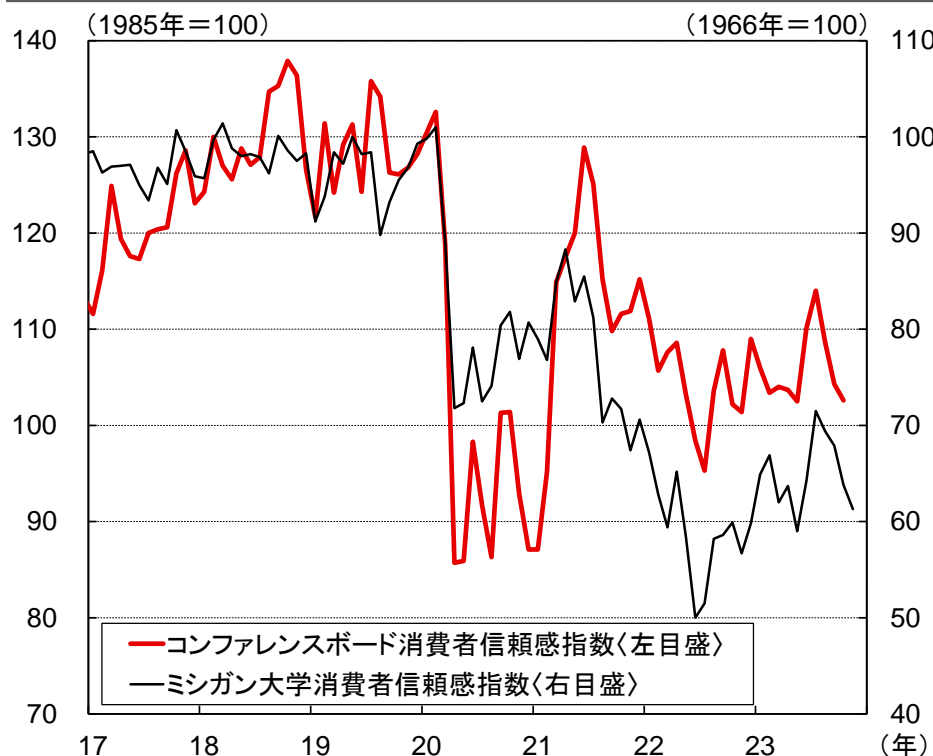


(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

5. 個人消費

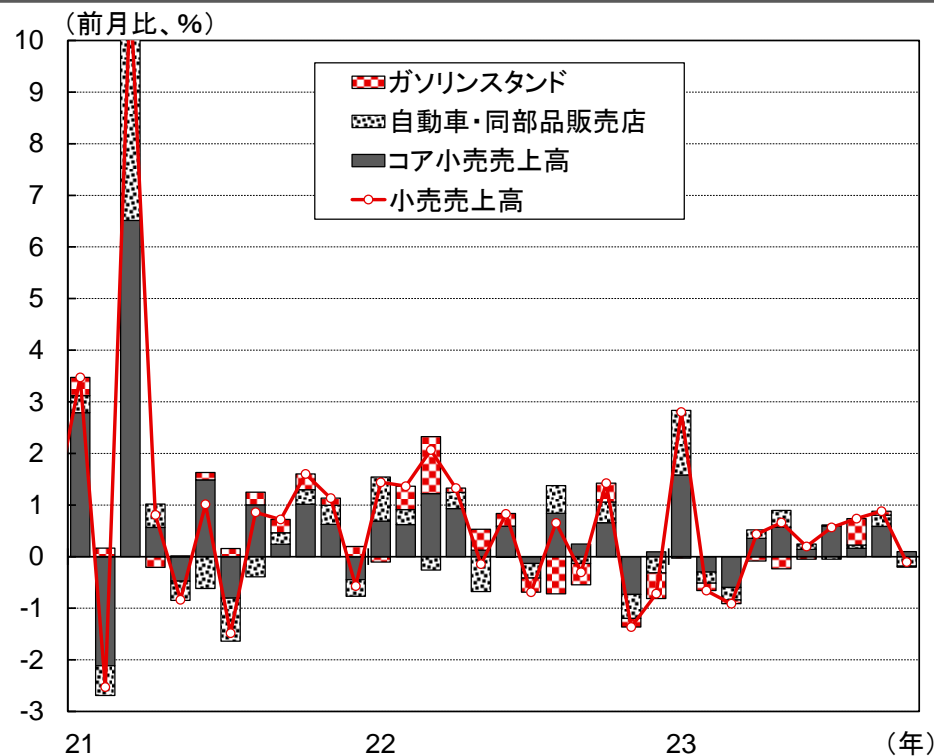
- 10月のコンファレンスボード消費者信頼感指数は102.6(前月比▲1.7ポイント)と3カ月連続で低下。また、11月のミシガン大学消費者信頼感指数は61.3(同▲2.5ポイント)と4カ月連続で低下。期待インフレ率は1年先が4.5%(前月:4.2%)、5年先が3.2%(前月:3.0%)とそれぞれ上昇。
- 10月の小売売上高は前月比▲0.1%と7カ月ぶりに減少(9月:同+0.9%、改定値)。業種別にみると、「家具販売店」(同▲2.0%)、「自動車・部品販売店」(同▲1.0%)、「スポーツ用品・娯楽・楽器・書籍販売店」(同▲0.8%)、「ガソリンスタンド」(同▲0.3%)、「建材・園芸用品店」(同▲0.3%)等が減少した一方、「電機・家電販売店」(同+0.6%)、「飲食店」(同+0.3%)、「無店舗小売店」(同+0.2%)等は増加。「自動車・部品販売店」と「ガソリンスタンド」を除くコア小売売上高は同+0.1%(9月:同+0.8%、改定値)。

消費者信頼感指数の推移



(資料)コンファレンスボード、ミシガン大学統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

小売売上高の推移

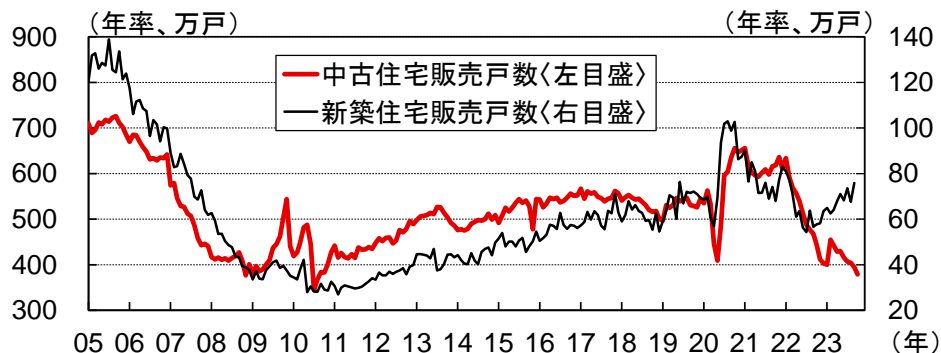
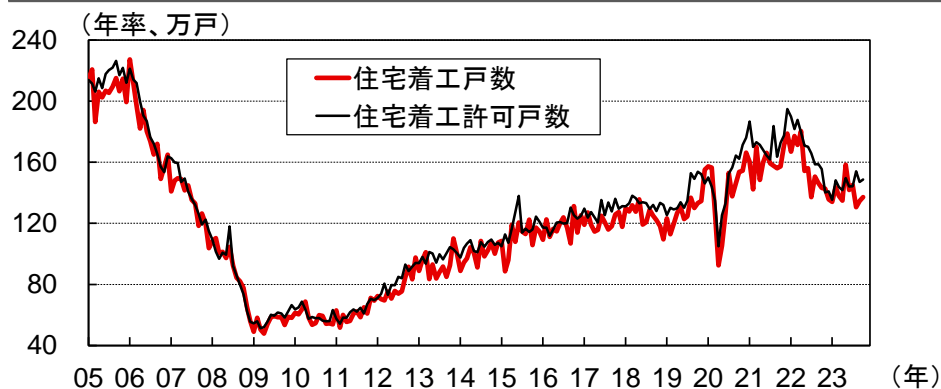


(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

6. 住宅

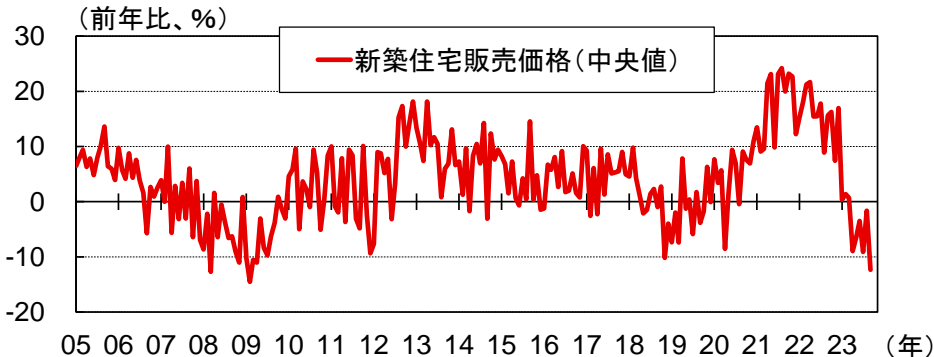
- 10月の住宅着工戸数は前月比+1.9%の年率137.2万戸(季節調整済)と2ヵ月連続で増加。内訳をみると、一戸建住宅は同+0.2%、変動の大きい集合住宅(2世帯以上)は同+6.3%とそれぞれ増加。先行指標である住宅着工許可戸数は同+1.1%の年率148.7万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに増加。
- 住宅販売戸数は、10月の中古住宅が前月比▲4.1%の年率379万戸(季節調整済)と5ヵ月連続で減少し、2010年8月以来の低水準。9月の新築住宅は同+12.3%の年率75.9万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに増加。
- 住宅販売価格は、10月の中古住宅が391,800ドル(中央値)、前年比+3.4%(9月:同+2.4%)と4ヵ月連続で上昇、9月の新築住宅は418,800ドル(中央値)、同▲12.3%(8月:同▲1.6%)と6ヵ月連続で下落。

住宅着工戸数・着工許可戸数・住宅販売戸数の推移



(資料)全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

住宅販売価格の推移



(資料)全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

7. 物価

- 10月の消費者物価指数は前年比+3.2%(9月:同+3.7%)、食品とエネルギーを除いたコア指数は同+4.0%(9月:同+4.1%)と、それぞれ前月から伸びが鈍化。「エネルギー」(9月:同▲0.5%→10月:同▲4.5%)の下落幅が拡大。コア指数のうち財は同+0.1%(9月:同+0.0%)と小幅加速。コアサービスは同+5.5%(9月:同+5.7%)、うち「住居費」は同+6.7%(9月:同+7.2%)と鈍化。
- 10月の生産者物価指数は前年比+1.3%(9月:同+2.2%)と、エネルギー価格下落を受けて伸びが鈍化。内訳をみると、「財」は同▲1.1%(9月:同+0.7%)と3ヵ月ぶりに下落、「サービス」は同+2.6%(9月:同+2.9%)と伸びが鈍化。食品とエネルギーを除いたコア指数は同+2.4%(9月:同+2.7%)と伸びが鈍化。

消費者物価指数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

生産者物価指数の推移

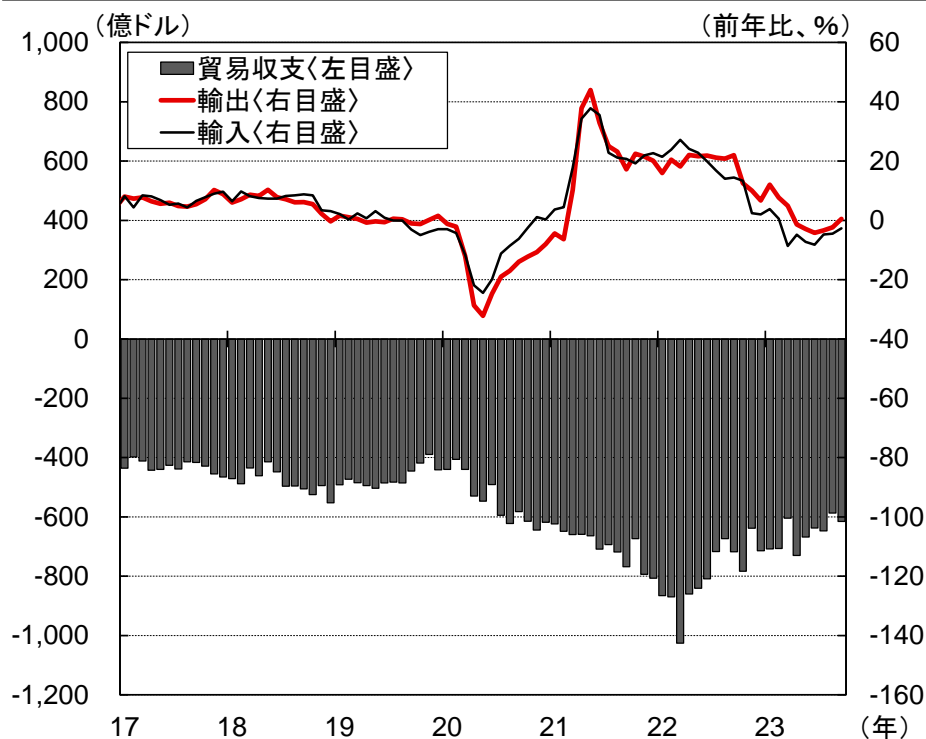


(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

8. 国際収支

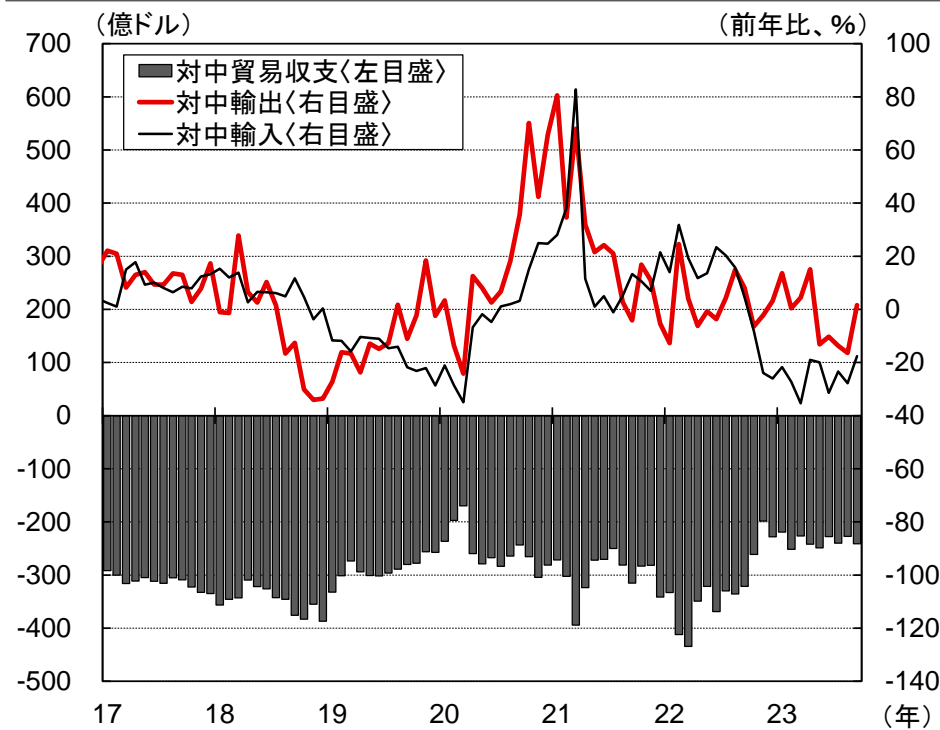
- 9月の貿易収支(財・サービス)は615億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比+4.9%(同+29億ドル)と拡大。輸出は同+2.2%と3ヵ月連続で増加、輸入は同+2.7%と2ヵ月ぶりに増加。前年比でみると輸出は+0.5%と6ヵ月ぶりに増加、輸入は▲2.7%と7ヵ月連続で減少。
- 財の貿易収支を国・地域別にみると、米国の貿易赤字(財)の3分の1程度を占める中国との貿易赤字は9月に241億ドルとなり、赤字幅は前月比+6.1%(同+14億ドル)と拡大。対中輸出(財)は同+13.5%、対中輸入(財)は同+8.5%と、ともに2ヵ月ぶりに増加。前年比でみると、対中輸出(財)は+1.6%と5ヵ月ぶりに増加、対中輸入(財)は▲17.7%と12ヵ月連続で減少。

貿易収支と輸出入(財・サービス)の推移



(注)国際収支ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

対中貿易収支と対中輸出入(財)の推移



(注)通関ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

9. 金融市場動向

- 10年物国債利回りは、10月中旬から下旬にかけて5%まで上昇。11月に入ると、FOMCによる政策金利の据え置きに加え、市場予想を下回る雇用統計の結果や消費者物価指数の鈍化を受け、FRBの利上げが終了したとの見方が強まり、10年物国債利回りは急速に低下して足元では4.4%台で推移。
- ダウ平均株価は、急速な金利上昇を受けて10月下旬に32,400ドル台まで下落。その後、市場予想を下回る経済指標が続いてFRBの利上げ終了観測が高まり、10年物国債利回りが低下するとともに株価は持ち直し。

10年物国債利回りの推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

ダウ平均株価の推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名 : 株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室(ニューヨーク)
1251 Avenue of the Americas, New York, NY 10020, USA

照会先 : 角田 ともみ e-mail : tkakuta@us.mufg.jp